

学校選択制についてのご意見（要約）

今回のフォーラムに参加できて、学校選択制について、メリット、デメリットなど少しわかった。校区外へ通学するとなると、部活動が終わり遅い時間に下校することになるので、とても心配だ。今の段階では、校区の学校を希望する。

反対、子どもを育てる責任は親にあるのは当然であるが、現在の社会状況から全て親に依存することは困難。子ども達にとって地域は故郷、近隣の友達関係がなくなる。

まず、親の負担が大きすぎる！子供の精神面も不安
東京の選択制の説明で、各学校で“メリット”“デメリット”があったが、あきらかにデメリットの意見を重要視すべき点である。

それでも足立区の保護者の賛成意見が多いのは区の説明不足なのでは？
地域のコミュニケーションを断ち切らないでほしい。市長自身にコミュニケーション能力がないので、わからないジャンルとは思いますが。なんでもかんでも東京や外国のマネじゃなく、もっと市民の考えを軸に願います。

地域PTAの意見は賛成。区として選択制をする方針や方向性について明確な説明がなされていない。今後、中学校区での説明会を区の責任で行っていくべきだと思う。

学校選択は、中学校の場合は、ある程度子供が大きくなっているので相談しながら話を進めることができるが、小学校の場合は、やはり親の意見が強くなる傾向なので、そこらの調整も含めて区民が納得のいく制度を作っていただきたい。

例に出された、足立区や多摩市と住吉区の規模がかなり違うと思う。住吉区の説明ではメリットがあんまり感じない。ただ、いじめや友達づくりに失敗した学生は、転校でやり直しのきくこともあり、メリットは大きいと思う。

杉並区の廃止が気になる。この制度はとても手間のかかることではないだろうか。

導入にかかわらず、年に何回か在籍を問わず市民に学校公開をして欲しい。

導入するのであれば、区を超えて隣接区を含めて選択できるように。保育所行政では可能なので、絶対に不可能ではないと考える。

今回の参加人数は少ない。次にもう少し多数の意見を問える場や方法を考えても良いのでは。

学力向上が目的ならば、教員(とくに担任)が休んだ際に先生がいない状況で自習するのではなく、他の先生が入る等の対応ができる程度に増員をし、先生にも余裕が持てる状況づくりをお願いする。

在校生に兄弟がいると、選択することがなく必然的に、兄弟の学校に行かざるをえないので、家庭の子供兄弟で新入生を先に考えなければならないのでは？隣接区域選択制は助かるかも知れない。

公立の学校の意義は、何なのか？地域との連携が大きな意義だと思ってきた。見守り隊の方も、顔と家が分かり、地域で子どもも育っていると感じている。登校班での登校も上下のつながりになっている。公立と私立の差は、地域とのつながりだと思う。

我孫子南中PTAの方の意見、同感だ。学校選択制には問題が多い中で、推進することはおかしいと思う。

地元との関係が非常にうすくなっているのが現状だと思う。

私は今までの校区制で良いと思う。

特別支援を要する子どもさんについては柔軟に対応すべきと思う。

地域に根ざして生活することが大事で、今のままでいいと思う。もっと中身を充実させていく方法は色々ある。子どもたちが地域で幼なじみと共に勉強にはげむというのがいいと思う。子どもたち(ひいては大人たちも)をバラバラにする選択制は反対だ。

全国でも14%しかやってなくやめるところもあるような試みはしないほしい。もっと広く意見を聞いて下さい。市民や区民の語り合う場をつくるべきだ。

学校選択制に反対。

学校選択制については、あびこ南中学校のPTAの方の意見とだいたい同じです。どの学校も同じようにいい教育をされることを望む。選択制で質が向上するとは思えない。

いろんな理由での転校希望には個々に対応することで解決すると思う。

地域で子育てをし、自分の学校については声をあげて教師と父兄が協力して、より良くしていくことが大切だと思う。

現在のひきこもり、いじめ、学級崩壊などをなくすために、自由型選択にして、少しでも安全・安心に教育が出来る場にしてほしい。

毎日のことで不安でどの学校へ行ったらよいのかを迷っている方のために、区長などが相談に応じて、安心出来る学校をおすすめしていったらどうか検討してほしい。

今回の話を聞いて、本当に学校選択制が必要なのか…

学校選択制のデメリットの方が印象に残った様な気がする。

学校選択制で学力アップをはかるのは反対だ。どの学校も学校と保護者が協力し合ってがんばって取り組んでいかないとと思うから。

児童数の少ない、あまり勉強意欲の強くない学校の区域なので、公立の小学校に本来は通学させたいところ、やむなく受験させなければいけないかと考えている。もし選択制になると、幅が広がり公立入学も可能になるかと期待している。

選択制には反対だ。

今日の話を聞いて何ひとつ子どもにとっていいことがあるとは思えない。

義務教育に格差はもちこまないでほしい。

学校選択制の本当のねらいは統廃合でしょうか。選択の自由とはいえ選ぶのは親です。小中学生は地域で見守られることが一番だ。

競争と格差の学校より、地域、PTAが手をつないだ教育が大事。

これ以上、教師の仕事を増やさず生徒に目がいき届くようにしてほしい。

選択制には反対。資料に掲げられているデメリットのほか、毎年毎年就学事務や学校の運営が非常に煩雑になる。「校区の子ども優先、受入可能人数を見積って募集」と想定されているが、毎年の当該校区の子どもの数の把握と受入可能数の決定ということを各校ごとに行い、調整する必要がある。抽選に落ちた場合の処置も遺漏なく行う必要アリ。

また選択制に伴い、児童・生徒数が年々変動することも考えられ、各校の経費の予算編成も大変になる。また、本当に、不人気校が生じて、その学校が廃止ということになった場合、その地域のコミュニティ・防災拠点がなくなってしまうのは大問題。子どもの自然減少に伴い統廃合を行うのはやむを得ないが、廃校を生み出すような仕組みをつくるべきではない。

市長はほとんどの保護者が希望しており、「民意」に基づく教育改革だと公言しておられるが、本日の参加状況を見る限り、区民保護者の関心は極めて低く、この要因は、行政の説明が不十分、あるいは反対の保護者が多いことが予測されている。

私自身も「学校選択制」には強く反対する。子どもの教育、子育ては、地域・家庭・学校の三者による連携と信頼関係と絆によって実現する。また、住吉区内には、旧同和教育推進校がある。今なお、同和地区に対する差別意識は根強く存在している。差別意識に基づく「選択」は許すことはできない。

同じ地域の中で、公立学校でやっていることが違うのは、安心して子ども達を通わせられない。競争や特色の競い合い、人気とりみたいなものになるのは、現場の先生たちも本音で保護者と話せず、人気をそこなわないようにと、教育の本来の目的と違うことが求められるようになると思う。

選ばなくとも、どこでも子どもを中心にした学校づくりをしてほしい。学力テストの点開示とセットなんてナンセンス。杉並が10年かけてやめたことを今から始めるなんておかしい。橋下市長になって、「できない子はいらん」と言われる気がして生きづらい。

清水丘小の田村校長、大和川中の田中校長の話を聞くと、地域とのつながりの重要性を感じる内容で、学校選択制はこれらの成果を後退させるものと思う。
我孫子南PTA桑原さんの意見に、全面的に賛同する。

結論からいうと反対。

こんなことに力をいれていくな、パネルディスカッションでもあったように、学校改革に力を入れ、これまでにある特色も大事にしつつ、それが継続できるようにすること、教育に格差が生まれないように人材の育成をすることなどに力を入れ、小・中連携をし、地域とのつながりを密に考えてもらいたい。

子どもの意思というが、結局は保護者が選択していることになるだろう。地域のつながりが薄くならないのか…。色々なことが考えられるので、学校でもこのようなフォーラムも開いて、全保護者の意見を聞くべきと思う。

子どもたちの世界を分断する結果になりそうだ。

近隣の子どもは今迄通り同地区内の学校に通う方が良い。

義務教育では、すべての子どもに生きていく上での学力をきちんとつけるために公教育があるのだと思うので、選択制には反対。

今でさえ地域の子ども会がなくなっている所が多く、地域ぐるみで子ども達を守る力が弱くなっている。見守り隊なども近所の子どもさんだからこそ話を聞いていると思う。子どもの安全面から選択制は問題だと思う。

もし、学校選択制が導入されるのであれば、ブロックもしくは隣接区域選択制が希望する。やはりその地域により特色が違ふ。私は、今の住居を選んだのも通う小学校、中学校から選んでいる。あまり他・外部からの風を受けたくない。

また、自分の子供も遠くの学校に通わすつもりはない。近所の友達と同じ学校で学んだり、遊んだり出来るのが公立の良さではないのか。基本的には、選択制の導入には反対。

地域とのつながりが、希薄になるために反対。

また自分の生活する地域の縮図であり、自分の住んでいる地域のことを知り、そこに住んでいる仲間とつながり、地域の大人とつながることで自分の住む地域に愛着を持ち、今後も住み続けたいと思える住吉区ができていくと思う。

中学生は可として、小学生は近くの学校が安全だ。非常時の対応が心配だ。問われれば回答する。

本日のフォーラムの内容について、他区では参加者からフリーな発言や質問の時間があつたと聞いているが、住吉区では何故「意見・質問票」に対する説明なのか？これでは、主催者側が答え易いものを選んで、それへの説明を行うだけとなりかねない。やっぱりフリートークでもっと参加者の「生の声」に耳を傾けたらどうだろうか。

清水丘小と大和川中の先生の話は、それぞれ「特色のある学校づくりの取り組みについて」と「学力向上の取り組みについて」であつたが、これらの話が「選択制の導入をどうするか」ということと、どういう関係があるのだろうか？教育委員会の話は、他都市の状況説明であり、区長の説明の中ですでにあつたし、区長の話の中で補足的に付け加えればいいことだ。あまりにも一方通行で、「いっしょに考えましょう！」という雰囲気では全然ありませんね。次のフォーラムに期待する。

学校選択制にはまだまだ疑問があり反対。学校と地域との関係が希薄になる上、保護者の「地域に対する責任」、子供の「地域に対する愛着」も薄れ、人と人とのつながりが薄くなると思う。大阪は東京に比べ、何代も同じ地域に住む地元民も多いので根付かないと思う。

現在でもPTAに協力してくださる保護者が少ないのが現状であり、校区外の保護者の方が、遠くの方から朝の見守り等に参加してくださるのかととても疑問だ。

区独自の判断が優先されるならば「熟議」委員会のメンバーには、現状をしっかり持たれている方々をお願いする。

義務教育に序列化は、反対。

学力テストの公表は、必ず、学校の序列化を生みだすので反対。

学校選択制よりも、住吉区では小学校区が複雑に(地域の事情により)なっていると思われるので、まず、その改善を行うべきだ。選択制はそのあとだ。

選択制を導入することにより、学校による生徒数の格差が広がること、又、集団登校等ができなくなり、防犯上での不安を感じる。

反面、学校が特色を持つことやよい学校づくりに取り組み、向上するために努力することは期待が持てる。これをきっかけに子供たちにとって、良い学校が増えることを願う。

障がい児の原学級保障にとりくむ姿勢の違いが、学力偏重主義の考え方から否定的にとらえられ、障がい児教育の推進を阻害することにつながらないか危惧している。障がい児が地域の学校に通い、地域の子どもどうしが共生できる教育環境を大切にしたいと思う。

現時点では反対。

今日の高橋区長の説明、パネラーの意見からみて、メリット、デメリットの割合は、メリットはデメリットを越えていない。3:7くらいでデメリットの方が大きいのではないだろうか。

選択制になったとしても、大きく学区を超えても来る家庭は極まれだと思われる。選択肢が増えることは良いと思う。ただし、大きな特色を持った学校に入学しても校長が変わってカラーがガラッと変わる事のない様、ある程度共通した土台を保って欲しい。例えば我が家は山之内で山之内小学校区であるけれども、新しく綺麗な大空小学校への入学が可能なら、そちらを選んだと思う。理由は、学校の耐震性等が大きい。この様な事は全校共通して維持された上で選択できるようでなければならないと思う。

幹線道路を超えて行かないといけない校区の親御さんの心配もよく聞くので、選択制は良いと思う。「地元」「地域」をもう少し広い視野で見れば、大きな問題はないと思われる。

どう考えても格差にしかつながらないので反対。具体のビジョンが見えてこない。昔の越境とかかわらない。地域のコミュニティとしての学校をめざすのは選択制ではできないと思う。住吉区では必要ないと思う。

この施策について断固として反対。

地域の子どもは、地域で育てるといった事がくずされる。まさしく地域を分断するような大阪市の取り組みは決して行うことがないようにしてほしい。

大阪市教育委員会として、本当にこのままでいいのか？市長選挙以降にポツと出てきたような安易な取り組みだ。

小学校と地域のかかわり方が今後どのようにすればよいのか、又、登下校時の見守りの在り方なども難しくなるのではないか。

本人・保護者に最低3校ぐらいの選択権をあたえるべきである。

話し合うチャンスが少なすぎる。幼稚園・保育園など就学前の親の意見をもっと聞くべきである。義務教育でありながら学校間に格差が出るのはおかしい。また、何を基準に選んでよいのか資料が少なすぎる。公開テストの結果も公表されるのか。

また、入学時のみしか決められないのは、ある意味「カケ」みたいなもので、そんなバクチのようなことはできない。

特別支援をうけている子は、たらいまわしにならないか、また、ひとつの学校に障害児ばかりが集まってしまっているのではない。できる子、できない子、障害がある子と分けられてしまうように感じ、差別が生まれるように思う。私はあまりメリットはないように思う。

「特色ある学校」とは地域の実績と無関係ではない。地域、保護の教育サポーターと教職員で創るもの。ところが、教職員には異動があるし、児童生徒数によっても配置人員が変わる。希望数に左右されては持続継続する教育が創りきれない。

また、希望の多い学校は定員(40人学級)がめいっぱいになり、校舎増設改築がない限り、きめ細やかな取り組みができない。分割少人数の空き教室を確保できるのだろうかと思う。

選択しなくてもいいように、どの学校も偏りなく教員の質の向上、特色などの格差をなくすことに力を入れることが前提ではないだろうか？

いじめが小学校であった時、中学校選択できるのは子供に逃げ道を作ってやることができていることでもあると思う。

家庭の事情で、近所の祖父母と同居しなければならなくなったので転校した場合、学校選択できれば転校せずに済むのでいいのでは・・・？

なぜ国や大阪市が学校選択制を進めるのかわからない。本日のパネラーの方々のお話でもそのことがよりはっきりした。学校の特色づくりや保護者の教育への関心が高まるなどは、清水丘小学校の校長先生やあびこ南中PTAの方の発言されたとおり、今のままでもできると思う。

また、校区外へ通学することのデメリットもある。地域とのつながり、学校、PTA、地域が協力し子どもを育てることが、選択制によってこわされると思う。今のままでよいと思う。

PTA代表の桑原さんが私の心配事をすべて述べてくださった。

公立学校に序列化を助長する制度はあるべきではないと思う。

親の判断は、隣の芝生は青いというように決して公平なものではないと思う。学校現場は人気集めのために地に足のついた指導ができなくなり、子どもや先生は疲弊してしまうと思う。

一度低い評価を受けたら、その学校が人気を回復するのは容易なことではないと思われる。対外受けをする教育でなく、1人1人の子どもの成長に目を向けた教育をしていってもらえるよう選択のない方式で願います。

私は自宅から近い学校に行くのが一番だと思っている。

しかし、学校の学力のレベルが違くと聞くと、やはりレベルの高い所に行かせたいと言う親は多いと思う。市内の中でも特に南の地域はレベルが低いと聞く。そもそも、公立なのにレベルの差があるのがおかしい。だから、選択制を希望する人が出てくると思っている。生活のレベルの高い地区は学力のレベルも高い、すなわち質の良い先生もいるのだと思う。

地域の子供は地域で育つと思い、自分も地域で育ち、地域の学校に通ってきた。確かに、家の近くに学校があるのに、校区の関係で少し離れた学校に通う友達もいたが、そこには1つの輪ができていたように思う。

勉強の面やスポーツの面で学校を選んでいくと、ますます、人間関係の希薄さが増すのではないかと心配になる。

選択制を導入すれば、学校と地域との関係が薄くなるだけでなく、保護者同士・子ども同士の関係も薄くなると思われる。

定員割れをした小・中学校に通うことになった子どもたちがどういう気持ちになるか、簡単に想像がつくと思われる。自分の通っている学校は人気ないかなあ、悪いとこなんかなあ。と考え学校に対する尊敬とかほこりとか、勉強や部活動に対するやる気なども失われてしまうのではないのでしょうか。

選択制の以前の問題として、特色のない学校は存在するのか。あるとすればそれ自体が問題であり、学校運営の質が問われる。また、特色だけでなく子供達の教育権は、学校・家庭・地域で作られるものであり、それぞれの連携なくしてはありえない。近所のおっちゃん・おばちゃん・おじいちゃんが子供達の安全を守り、その人達に感謝する親を見て、子供達は成長していくのでは。

まず、学校選択制が新入学生のみしか対象でないことが残念だ。我が子はまだ小学校に入ったばかりなので、できれば区内の全域で、小学校を選択して、その小学校の区域の中学校へ行かせたいと思っていたので、これから今の小学校へ通い、中学校のみを選択するというのは、結局限られた中学へしか行かなくなるだろうな(小学生の内に友達関係ができあがり、遠い中学へは行かせなくなると思われるので)と思った。

できれば、低学年でも選択できれば良い。住吉区の学力は高くないので、先生方の意識が高まり学力があがることを望む。

校区の境目にあるなどは、すぐ横に学校があるのに遠いところに行かなくてはいけないもどかしさがあった。

選択制は、隣接区域選択制ならスムーズではないかと思う。これまでの広がり具合をみると、選択制は必要なしと思うが。

清水丘や大和川の校長先生の話を聞くと、地域との密接な関係が大切であり、学校選択制はデメリットが大きいと感じる。

「地域の子供は地域で育てる」大変いい言葉ですし、実践されている区だと思う。

地域との関係が希薄になっている現在、より一層薄れていくことにならないか心配であり、又、教員が現在でも多忙であるのに学校間の競争が激しくなれば、学力向上に力がそそがれ、問題行動があっても見逃されることにもなりかねない。PTA活動においても予算減少やプール使用禁止、飲食禁止、などなど活用が制限されてきており、PTA役員の負担の割には苦情や批判が多くなっていて、役員のなり手不足となっており、特色といっても出しにくく、学校格差が広がるばかりとなりそう。

学校選択制になれば、集団下校などがなくなるのでしょうか。町会・子ども会などの地域との関連性も薄くならないのかなど、考えるべきことが多いのに、市長が言ったことをすぐに受け入れて、導入するというのはどうなのだろうか。

もっと時間をかけて議論すべきことではないか？例えば、選挙とかでみんなに賛成か反対か決める。

「学校選択制」に反対である。

従来通り同一校区内に居住する小・中学生は校区内の学校に通うべきである。

子ども同志のつながりが希薄になるのを防ぐ。

(例外)就学後のいじめで困った時の転校は仕方なしとする。

少子化の時節、学校間の生徒数のアンバランスが問題になる。特例は区長が判断してほしい。

学校選択制について反対。

子供達にメリットをもたらすのかわからない。数十年前にあった話が今、何故急に話がでてきて、すぐ決定しそうになるのかわからない。市長が言った話にすぐうなずき決定するのは、民意ではないと思う。

ブロック選択制がいいと思う。

我孫子南中学校のPTA、代表の意見に賛成。

絶対反対です。

今までの市長の発言を聞いていると学校選択の前提に学力テストの公表、不人気校の統廃合がある。例にあげられた足立区では過去2回も学力テストをめぐる不正がおきている。子どもたちの間にこれ以上の競争を強いる、学力テストの公表は絶対にやめてほしい。

特色ある学校づくりの努力は、その地域でやるべきで、学校選択制で解決できる問題はない。

小学校における児童同士の結びつきには、地域性が大きく関係していると思う。学校でのつながりの他にも、地域の公園や遊び場での交流も、児童の人間関係に大きく意味があるものだ。学校選択制を選んだ場合、通学区域が広がり、それとともに、児童同士の人間関係にも何らかの影響が生まれることを危惧している。

学校選択という中で、地域との希薄化が指摘されているが、時間外のクラブ活動において、選択制の対象校内でクラブ活動の選択があってもよいと思う。A校では野球、B校ではサッカー、C校ではバレーボール、D校では合唱といったように、各校で力を入れる部活を指定すれば、各校の交流にもなるし、設備の有効活用ができるのではないかなと思う。

デメリット 地域格差が表面化する。自分の地域を愛する心が失われる。

親の意思で選択されるのは差別を生む。

登下校時の安全面は、やはり気になる。たとえば、20分以内に家から学校に行ける範囲とか。一番は子供の安全だと思うので、交通量の多い場所を避けることができるような学校を選ぶなども考えていただけたらありがたい。

1. 小学校や中学校で選択制は必要ない。各校区で根付いた地域と学校の関係が崩れる。
2. 少子化が進む中、小中学校の生徒数が減少する中、市区町村が区域を決め地域や保護者に守らせることが大切で今の世の中、国や都道府県は国民や保護者に自由を与えずである。
3. 何を決めるにも地域住民や保護者に自由を与えるのではなく、国の方針、市区町の決定事項を守らせることが大切である。
4. あまりにも教育委員会が弱いため熱血先生はなくなり、モンスターペアレンツが増え、世の中がギスギスして文句や遊んで暮らす人間が勝ちの世の中にさせないようされたい。
5. 国や市町村長は、先頭に立って何事も決め保護者の機嫌取りはするな。今の役所は責任のがれをして何事も決められないのが現実で先が思いやられる。

小学校での選択制については、メリットがあまり感じられない。
H14年頃からの全国の動向と聞いたが、大阪において余り今まで、話題になってなかったように思うが、新しい市長の思いで、一挙に進めていくのが、とても心配だ。地域との希薄化につながるのではとの心配に、今、防災への対応を考える時、色々な事が心配だ。中学校においては、少し、意味ある選択ともとれるが。

学校の序列化をつくり、その後、学校の数を減らしたいという目的としてしか思えない。子どもの教育のための目的は全く感じられない。メリットは具体的に見えてこない。デメリットは具体的に多く挙げられているのに...

地域コミュニティをつぶす学校選択制は絶対反対。

- ①東日本大震災での地域のつながり(子ども～高齢者まで)で、多くの命が守れた教訓は一体どう考えているのか。
- ②住吉連合では、住吉中・大領中で防災訓練において中学生が大人への訴えでイザという時の人のつながりをどう守るかというプレゼンテーションでつながりづくりをしている。
- ③学校を選ぶことはよいことであるが、何を基準にするのが問題である。
- ④かつて、同和地区をかかえる学校からにげるような「越境通学」は問題であった。子どもを主体に隣近所のつきあい、つながりにむすびつく方向を出してほしいし、もっと意見を聞くべき。

現在中学生の娘は私立に進学したが、もし選択制が実施されていれば公立を選んだと思う。その反面、小学校の時は色々な学校行事で他の父兄との交流ができていたのが全くなくなってしまい、残念に思っている。理想を言えば、それぞれの学校がある程度の質を維持して地域(学区内)に通うのがよいと思う。

学校選択制がどうして学力向上や学校の特色づくりにつながるのかよくわからない。選択しない学校はイマイチな学校ってことなのか？義務教育の場で大きな差がつけられないのなら、やる意味がよくわからない。地域とのつながりや地史を学ぶということなら、校区内のほうが良い気がするし、ただ、校区はもう少し大きくてもよいと思うが。小学校は導入せず、中学校は導入して欲しいと思う。行動範囲が全く違うので。地域振興会会長の前向きなご意見には関心した、すばらしい。

アンケートをとるとあったが、十分に過半数の意見を尊重してもらえるのか。公募された区長が、自らの意見だけで決定をするのなら意味がない。アンケートの結果を公表するように。

選択制のメリットがあるように感じられない。現在の学校の状況を聞いてもそう感じる。
やはり地域のつながりが希薄化につながっていくと思う。こどもにとっては、地域のいろいろな人とのかわりの中で育っていくことが大切であると考えます。
直接、意見交換ができないフォーラムの進め方について疑問を感じる。

14%の実施状況で何故今選択制なのか。その分、地域の学校を充実すべき。
「地域から学校がなくなっちゃいけない」という桑原さんの意見に同感する。
格差につながる学校選択制は反対だ。

小学校ブロック選択・中学校は自由選択に賛成・希望。

今の校区は行政が地図に線を引いて決めた物。なのにこの校区と地域がいつしか同一化して、今では地域の為に子供の可能性を少しでも伸ばしたいと考える親の意向をふみつぶす意見まで出ている。地域の活性化問題と学校選択制は切り離して考えるべき。

見守り隊の側面から選択制反対というのは本末転倒。子供がまき込まれる誘いか等の凶悪犯罪は30年前と比べて半減している。ウソは訂正させるべき。

子供の成長を最も望み、責任を持っているのは親だ。地域にとにかく言う権利などない。

断固反対。政治・選挙の結果次第で教育の方向性がかわるのはおかしい。

反対である。

理由

1. 地域コミュニティが希薄になる。地域は小学校を単位としてコミュニティが育成・運営がされているのに当該地域小学校に通学しないことで疎遠になる。

2. 学校が良い、悪いといわれるのは、先生の質の問題により質の差ができているためと思われる。

3. 住吉区は住居地域で工場等事業所の為に人口アンバランスが本来発生していない。もしあるなら時代によって校区面積人口バランスからで、校区調整をすべき。

小学校では通学時間帯の問題もあるので隣接区域が良い。

中学校では、自転車通学を許可し、自由選択性が良い

PTA代表北川氏・桑原氏のお話よかった。

「しないさせない越境入学」と市政だよりで広報している現在の方針を完全に逆転させての学校選択制の導入は、越境入学・通学が人間尊重の観点から問題があるとの認識をそのままに『学校選択制はメリットが大きいからちょっとばかりの人権問題には目をつぶろう』と云う姿勢がうかがえ、まさに暗い理性のなせるわざとして容認することはできない。とくに、同和問題に関係する差別偏見と云う人権問題が、学校選択制によって助長されるおそれを住吉区はとくに配慮する必要があるはずである。

「学校選択制」については、期待よりも不安に思うことが多い。

優秀な子どもたちが集まる学校区に住んでいるのなら話は別だが、よく言われる不良グループが集まるような校区になってしまったら小さい子供がいる場合、たばこを吸っていたり、ゴミを散らかしたり、大きな音をたてたり、地域自体が荒れてしまうのではないかと心配する。

PTAの方からもあったが、説明会をもっとたくさん設けてほしい。

決定プロセスの透明化、区民参加を積極的に促してほしい。

選択制より学校と地域の連携がもっと活発にできるようなしくみ作りの方が、先決ではないかと思う。

部落差別をはじめ、根拠のない風評による学校の「選択」があってはならない。しかし一方、現在の校区が小学校前の子供が他校に通っているという不正常な実態もあり、子どもにとって現状のままでよいとは考えにくい。

また、子どもの教育の条件はかつてより一層複雑化しており、学校のみでは難しくなっている。親の力(経済的、教育的)によって満足に教育が保証できない場合もあり、特に虐待も含め子どもの教育権を保証するために地域と一緒にあって取り組むことが大切で、それ故、単純な学校選択制は危険。

個別の親の意見を聞いて、変えたい理由についての基準を明確にすべき。

以前に越境入学という問題があり、地域の力を借りながら、克服してきた歴史がある。いまだに部落差別が存在している中での学校選択制導入は、差別を拡大することにつながり、反対だ。

また、学校・地域・家庭の連携の中で、子どもは育つ。しかしこの制度は地域との関係が切れてしまい「子どもの育ち」が正しくなされないと思う。また、学校間格差がひろがり、教育の中に荒廃を生む危険がある。

説明会やこのような区民フォーラムをもっと開催すべきだと思う。急ぎすぎるのは、大変危険だ。

住吉区に住んで35年で、小中学校は住吉区内の学校へ通学した。基本的には賛成。居住する場所はなかなか変えることが出来ない為、選択が可能になるのは助かる方もあると思う。また、親も関心を持ち教育や地域に参加するきっかけになるかもしれない。

新しい事には、抵抗を持つ方々はいらっしゃるし、わざわざその学校へ通学させたい為、移り住んだ方々もあると思う。そういう人達は反対だろうか。今の制度が完璧であるとは思えないので、選択制を導入して、その後に課題を解決し、よりよいものに変えていけば良い、制度は時代に合わせて見直していく事が必要であると考えてるので、賛成だ。

大阪では長い年月をかけて、越境入学をやめさせようという運動が続けられてきた。このことに対する総合的視点がない中での導入にとまどいを覚えている。差別のない社会を作るために様々な地域で活動し、取り組みが進められてきた。結果として、時代が逆行してしまわないか心配だ。

選択制は必要なし。子供の安全が第一。

全体においては、学校選択制の導入の必要はないと思う。ただし「いじめや不登校」など問題が出てきた場合においては、特例として隣接区域選択制などは、あっても良いと思う。学校を選択するなら、個人が引越して行くべきだと思う。

在学中に転居した場合、卒業まで在学することを選択できるようにしてほしい。
小学校時代にいじめを受け、同じ中学に行くのを避けるため、私立中学を選ぶ人がいる。いじめを受けて、私学か不登校しか選択できない状況になっている。学校選択制を採用するなら、入学時だけでなく在学中も、選択できるようにしてほしい。

私は学校選択制の導入そのものに反対だ。
我孫子南中PTAの桑原氏のご意見にもあったが、そもそも義務教育において学校ごとの特色づくり、序列化は必要だろうか？本来であれば、どこに住み、どの学校に通おうが、同程度の質のよい教育を受け、友だちと楽しく学び、交流し、先生方に導いていただけるのが基本であり、特色ある学校づくりに先生方を忙殺させないで下さい。どの学校も、「毎日楽しく通いたい」と思えるように、行政の責任において整備していった下さい。地域のつながりが子どもを育ててきた、住吉の歴史を壊さないで下さい。いったん壊したものは容易には元に戻せません。

地域の中で、子どもを育てたいと思い、現在、息子2人を校区の小学校に通わせている。本日の清水丘小学校の現状とほとんど一緒で、とてもあたたかい地域で、中学も同じ地域で育ててもらいたいと考えているが、部活動の種類の少なさ、評判などで私立受験も視野に入れている。
別に学校選択制にしなくても、いろいろ選択する方法はあると思うので、今のままで良いと思う。

公立学校においては、カリキュラムがある程度決まったものである以上、メリットがあげられていた「特色ある学校づくり」というものが、それほど学校間に差が出て、また、差が出たとしても学校選択をする際の1つのものさしになるとは少し考えにくい。

親が学校選択したい場合は、周辺地域の環境、子供や親の周辺住民との人間環境が実際の理由になるのでは。純粋に学力、スポーツの面で選ぶなら私立を選択すると思う。

ただし、上記の「親が学校選択をしたい場合は、周辺地域の環境、子供や親の周辺住民との人間環境が実際の理由」のときに選択する余地があるというのも親としては安心かなと思う。

PTA、地域ともデメリットを感じる方は反対されると思う。昔は、PTA、地域、学校の関係は大事と思っていたが、今はあまりそこまで思わない。

自由に学校を選択できるということは、PTAや地域にとってもメリットがある。親も学校に対しての関心を持ち、その延長でPTAにも関心を持つと思う。

私は学校選択制より、35人学級の方が教育効果が上がると思うのだが。
我孫子南中学校PTA会長の桑原さんのご意見に賛成する。やはり、学校の特色は、その地域に住む人とともに作っているものだと思う。

そもそも、なぜ選択する必要があるのか？義務教育の間は、どこの学校でもどんな子どもでも平等にきちんと教育を受けられるように考えることが大事だと思う。

高橋区長の説明はあまりにざっくりだったので、判断の基準にならない。
さまざまな面で、ていねいにメリット・デメリットを出すべき。
教育委員会での熟議の論議を公開すべき。
パネルディスカッションのパネラーが選択制ありきの選択でないことは評価。しかし、パネラーに小学生、中学生がなぜいないのか？
選択制ありきの議論にならないように。メリットあるのか？
生徒の意見、教職員の意見を聞くべき。
メリット、デメリットについての足立区、多摩の子供たちの意見、職員の意見、取り組みの内容、学力への取り組み効果などを知りたい。
本日、会場とのやりとりがないのはなぜ？住吉区は、HP上でパブリックコメント等をとるべき！

全国14%の実施の選択制の導入をしようとする教育委員会は何を考えているのか。
今の校区制で子供たちの夢はないのか？小中の先生方や地域の取組みの中で育つ教育が今はないのか？もっと未完成なものじゃないものを提案すべきだ。

格差が心配だ。

学校と地域との関係が薄れていく心配が大きい。十分な議論と説明の機会が必要と考える。

選択制は自由に選べて良いように見えるが、義務教育として国、市が責任持つのが抜けてる。親の責任おしつけになる。
選択できない家庭もあり、平等に教育を受ける権利がうすれるので反対だ。

基本的に「反対」。

反対。地域と学校との結びつきが希薄になる。うわさによって人気校とそうでない学校との差が生まれる。子供に幼なじみがなくなる。

小学就学前の子供を持つ母親として、学校選択制について大変不安を持っている。、東京では学校間の学力差、人気等が徐々に目立ってきていると中学生のお子さんを持つ友人が話していた。大阪でも特に学力格差が広がる原因となるのではないかと。

友人は、学校選択制が始まるなら、今から私立小学校入試を検討せねばという意見が多々ある。私自身は私立小受験を決めた。

橋下市長が結果を残したいが為の制度導入に感じる。

目的がよくわからない。子供の学力向上等を懸念されるならば、少人数制や教員(副担任制、教科別制等)増加してもらいたい。

放課後に補習、学力向上へむけてサポートティーチャー等、導入してほしい。

保護者の関心も向上する一方、無関心の保護者も増加するのではないかとと思う。

小さい子が遠い距離通学するのはしんどいし、見守る地域の人々が他地域の子を見るのは抵抗がある。

地域でのふれあい、絆ということを考えると学校選択制は導入しない方がよいと思う。

趣旨説明、周知徹底には4から5年はかかる。

～教育は100年の計～

あわてて変更する必要なし。

今でも、学校を中心とした地域コミュニティが希薄になっている。→社会問題の多発
これがますます薄れていき人と人のつながりが壊されていく。

基本的には実施してほしい。今日の議論にあった課題には対策をしたうえで。

10年経過して普及していないものは、そもそも論として必要なのか？ということを考える局面に来ているのではない。

縦割り行政の矛盾をかわすために、弾力的運用という言葉が出てきたのだとしたら見直すべきであると考え。ただ、目の前に学校があるのに遠いところに通わなければならないという状況だけは、避けるべきであると考え。

産経新聞の報道にあったが、クラブ活動で、この学校は〇〇クラブが強いから行かせると言った方法は可能なのかどうか。

公立学校というのは、やはり地域との連携なしではありえないと思う。

小学校、中学校に通っている保護者の意見を聞いていくことが一番ではないか？
今日話を聞くなかで、責任は保護者になってしまい、負担が大きくなった

子供会と校区が同じでないところがある。

地域づくりを見直す必要性はないのか疑問がある。

学校選択制の論議をきっかけに、地域の在り方を見直してほしい。

清水丘小学校の校長先生の話聞いて、学校の特色づくり、学力向上、通学の安全のためには、むしろ、地域との連携が大切であることがよくわかった。小学校での学校選択制は必要がないという思いを強くした。

中学校についても、やはり地域の担い手として中学校が関わっていくことの大切さが指摘されたことが印象的だった。

中学校PTA代表の方のお話は一つ一つ同意できるものだった。特に、学校選択制が学校間格差をもたらしかねないというのは重要な指摘だと思った。

地域と学校の関係、登・下校の見守隊等の問題。

地域連合の各町会の運営に親が参加しなくなる、青指等、各町会の行事の参加。

特に低学年では友達ができにくいのでは。

元の学校に戻れるのか。

放課後、家に帰ってから近所の子供と遊ばないような事になる。

選択制に賛成。これによって学校全体のレベルアップにつながる。

通学も保護者が安全と特心出来る範囲で考えればよい。

学校選択制の導入に反対。かつて「エリート校」に越境入学がまかり通っていた時代があった。あるいは被差別部落を校区に含むことで忌避され、住所を偽ってまで、他の学校に通うという状況があり、いまなお、その実態は存在している。

住吉区も入学適正化運動を進めてきたはずだ。それらの運動を否定するかのごとき動きの前には、まずその総括が必要である。それなしに学校選択制の導入は、差別を助長することにつながり、部落への忌避を行政が合法化することに等しいと思う。

特に、学力テストの結果を学校別に公表したりすれば、学校ごとの序列化が進み、格差が生まれ、差別を助長することに拍車がかかることが予想される。

学校選択制を実施しているところでも、選択廃止となっているところが多くある。そもそも何のための選択制であるのか明らかになっていないことが大きな問題点である。

その他にも地域のつながりが薄れていく、学校と地域との連携が弱まる、子どもの登下校時の安全性という問題がある。